

第4章 上福岡貝塚の調査

I 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、ふじみ野市域(旧上福岡市)の北部、武蔵野台地北東部端の標高 16.0 ～ 18.0 m に位置する。遺跡眼下の武蔵野台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。現在、上福岡貝塚をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約 9 ～ 10 m、新河岸川の水面からでは約 12 m の急崖を成す。

本遺跡を地形の区分で見ると武蔵野 2 面に相当する。隣接する権現山古墳群において、新河岸川に面した崖の地質観察では、約 50 cm の表土層下に 385 cm の関東ローム層が認められ、ローム層中には厚さ約 45 cm の黒色帯や、ローム下層でオレンジ色の軽石粒 (T.P に対比と考えられる) が確認され、市内の武蔵野 2 面の層序とほぼ同様の様相を呈することから、上福岡貝塚でも相位ないものとみられる。台地南側の滝遺跡や長宮遺跡の位置する一段低い段丘面では、武蔵野 3 面から立川面が広がる。

かつて、上福岡貝塚や権現山遺跡群の南側には新河岸川に流れ込む小河川(清水)が東流していた。現在でも地区の地名に残る「滝」は、この小河川が台地上から流れ落ちていたためとされる。縄文時代の上福岡貝塚周辺には、この滝地区を流れていた清水と新河岸川の流れがあったものと考えられる。これまでの調査ではローム層中から旧石器時代の遺構や遺物は見つからないが、近隣市町などでは湧水や埋没谷周辺部から同時期の遺跡が相次いで発見されており、本遺跡でも今後発見される可能性がある。

また、遺跡の北側には南北約 220 m、東西約 150 m、深さ約 1 m の楕円形の巨大な窪地が昭和 12 年の調査時から確認されているが、自然地形なのか人為的なものか不明である。現在は造成され工場等が建ち古い地形をみることは出来ない。

周辺の遺跡は、北側約 400 m に縄文時代前期集落の川崎遺跡と同 50 m に中期から後期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡(古墳群)が隣接する。ハケ遺跡では前期諸磯 c 期の住居跡 1 軒が確認されるが、権現山遺跡からは前期の住居跡は確認されていない。なお、ハケ遺跡では 2014 年と 2015 年の調査で、6 世紀代の古墳 4 基が新たに発見され、円筒埴輪や人物埴輪、土師器等が多数出土した。

第 8 表 上福岡貝塚調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
A～X α～ε	福岡 3-1187、1500 他	1937.5.23～7.19	—		火工廠建設	縄文時代住居跡 8	福岡構内石器時代	遺跡発掘調査報告
① 1983-6 試掘	福岡 3	(1983.6)	—		工場増築	—		
② 1983-12 立会	福岡 2	(1983.12)	—		工場建設	—		
③ 1985- 試	福岡 2	(1985.2)	426		市道築造	古墳 3、遺物なし	一部権現山遺跡群を含む	上埋VIII
④ 88- 試掘	福岡 3-1187-4	(1988.6.7～14)	3,200		工場増築	古墳 1、古代住居跡 4	権現山遺跡第 11 地点へ	上埋XI
⑤ 91- 試掘	福岡 2-1-4	(1991.5.7・8)	568		事務所建設	—		上埋 14
⑥ 92- 試掘	福岡 2-1500-8	(1992.5.2)	737		工場棟増設	—		上埋 15
⑦ 93- 試掘	福岡 2-1500-8 の一部	(1993.7.20～27)	799.3		事務所建設	—		上埋 16
1	福岡 2-1500-23・63	(2007.4.26～5.17) 2007.5.21～6.12	124		変電所増築	縄文時代住居跡 2、集石土抗、堀跡、水溜、消火栓		市内 4
2	福岡 2-1500-73・74・8 の一部	(2013.6.20～9.30) 2013.11.5～2014.3.10	1,830 (3,485)		建物解体・造成・抜根	縄文時代住居跡 10、土坑、溝、火工廠跡		市内 17・18
3	福岡 2-1500-23	(2022.10.24～27)	1,300	223.96	工場棟建設	遺構遺物なし		市内 28

上福岡貝塚が調査に至ったのは、1937年に陸軍造兵廠東京工廠福岡工場（火工廠）の建設において、整地作業中に貝塚が発見され、山内清男・関野克によって急遽発掘調査が行われたからである。2023年4月までに4カ所で調査を行っており、縄文時代前期の貝塚を含む住居跡20軒、集石土坑、堀跡、溝、火工廠の遺構等を検出している。

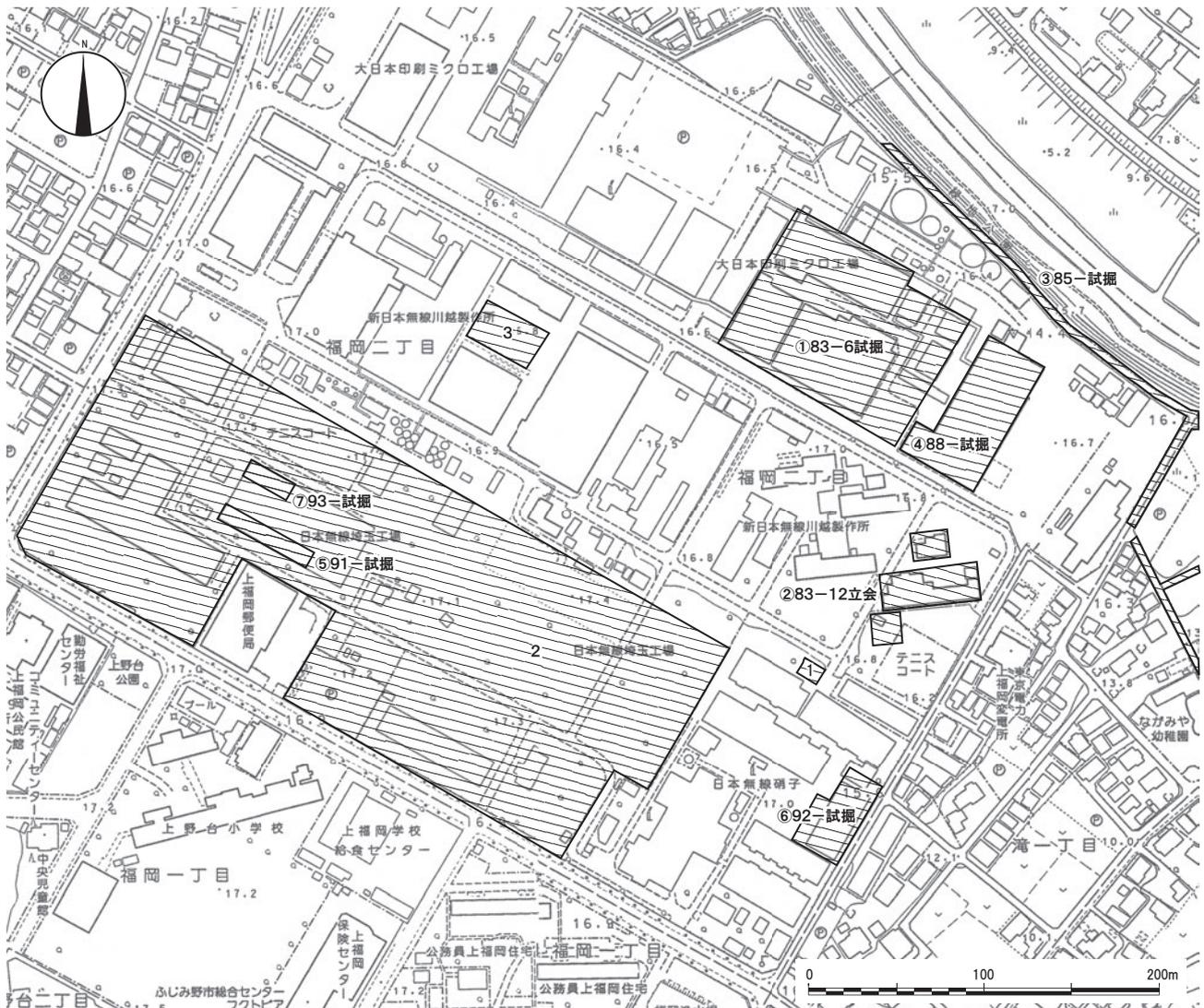
II 上福岡貝塚第3地点

(1) 調査の概要

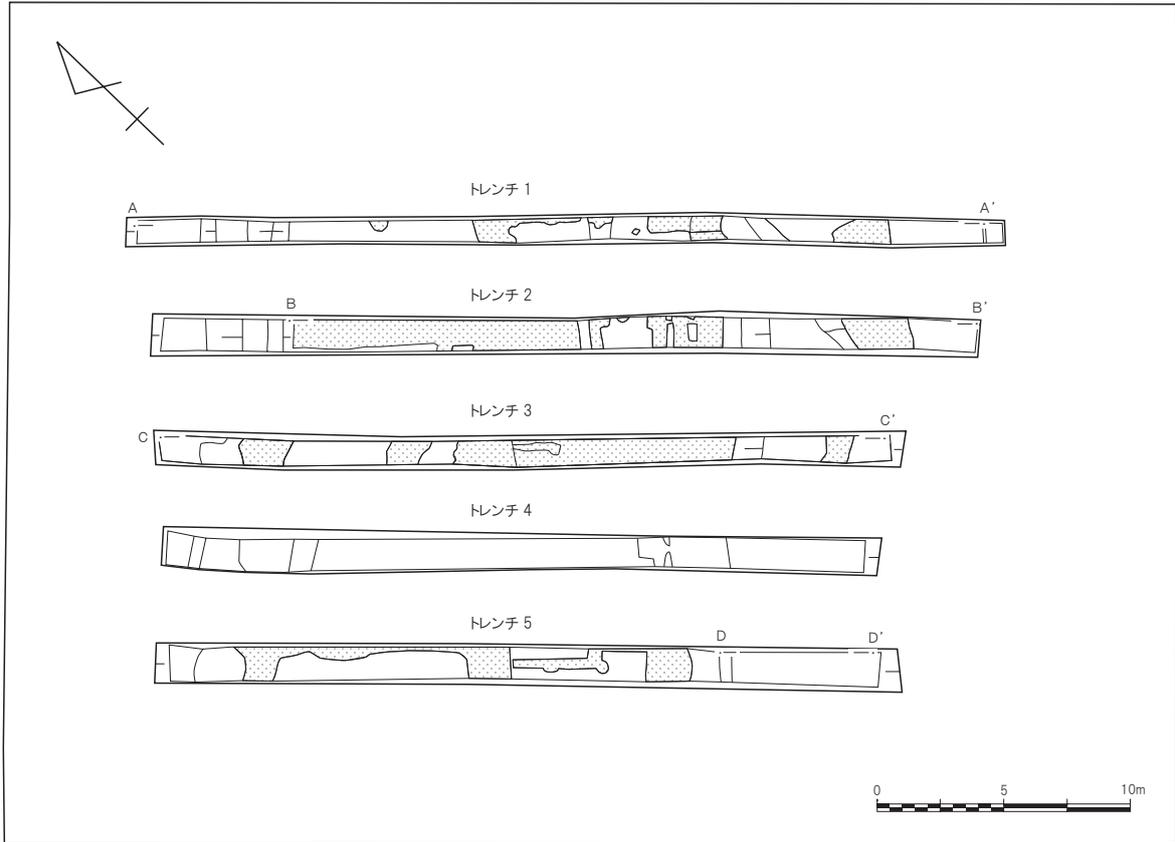
調査は工場建設に伴うもので、原因者より2022年9月21日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北西側に位置し、遺跡の範囲には該当しないが、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年10月24～27日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.3mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50～120cmである。

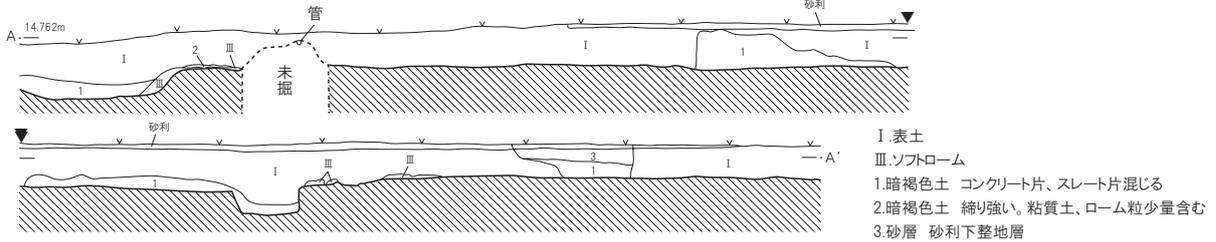
調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



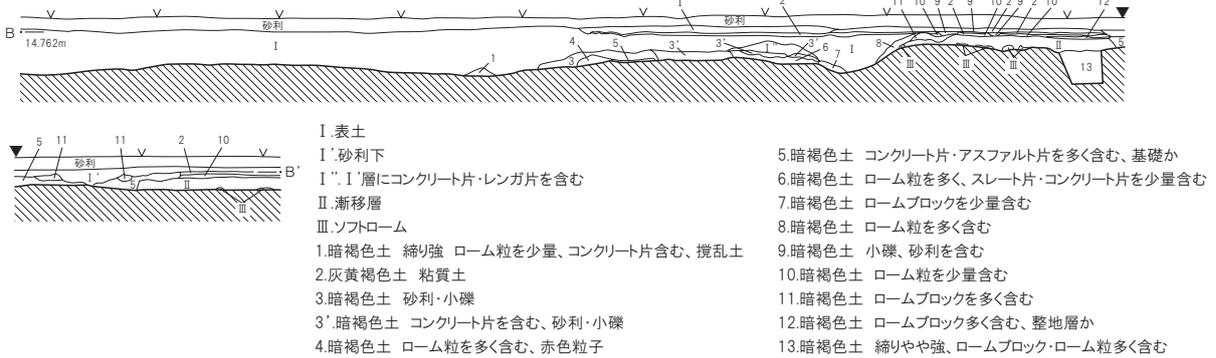
第7図 上福岡貝塚の地形と調査区 (1/4,000)



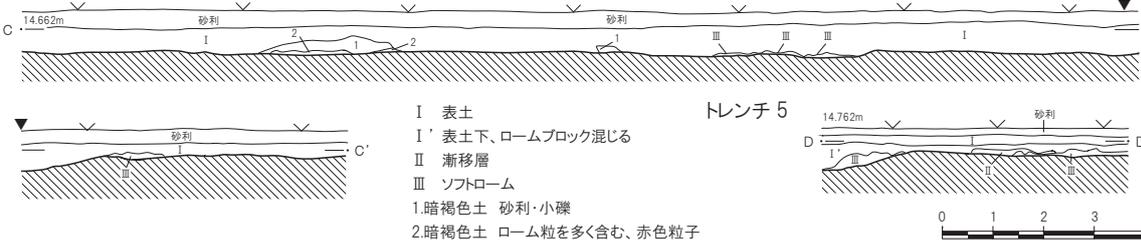
トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



第8図 上福岡貝塚第3地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



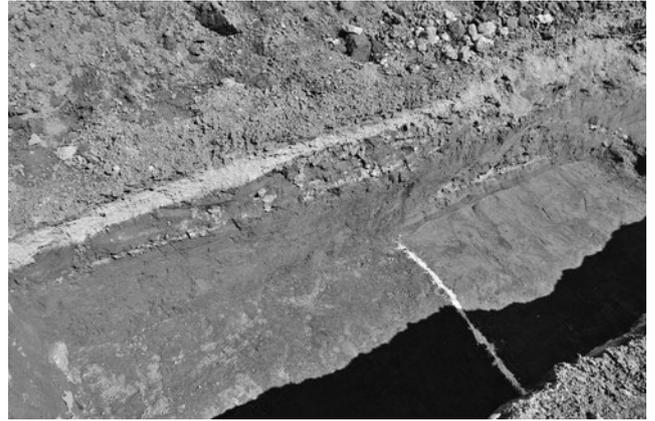
上福岡貝塚第3地点トレンチ1



上福岡貝塚第3地点トレンチ1土層



上福岡貝塚第3地点トレンチ2



上福岡貝塚第3地点トレンチ2土層



上福岡貝塚第3地点トレンチ3



上福岡貝塚第3地点トレンチ4



上福岡貝塚第3地点トレンチ5(北西より)



上福岡貝塚第3地点トレンチ5(南東より)



上福岡貝塚第3地点調査風景①



上福岡貝塚第3地点調査風景②